

### スタディ・スキル

#### 【ねらい】

大学とは何をする場所かを知る。大学での学びでは、何が重要かを理解し、それを実践できるようになる。卒業までに何をしなければならないのかを考えられるようにすることを目的とする。

#### 【特色】

大学は高校とは違い、自ら学ばなければ、卒業できない仕組みになっていることを理解できるよう、テキストを用いてワーク形式で進めていく。シラバスの読み方、講義の受け方、資料の探し方、レポートの作り方など、実際の大学生生活の進み具合に沿った順番にテキストのテーマを並べ替えており、予習・復習を含めて、具体的な実践方法を一つ一つ習得させる。

#### 【内容】

大学で学ぶためのスキルを項目別に実地に学習しながら、最終的に「卒業論文」に通じるレポートの書き方を身につけてゆく。

### ICT リテラシー1

#### 【ねらい】

情報機器（主に PC）の基本的な操作方法の習得だけでなく、情報機器の仕組みや情報伝達の技術に関する基礎知識の獲得を目的とする。

#### 【特色】

UNIPA（ユニパ）を利用して、予習のための資料を配信したり、復習のための「理解度チェック」（小テスト）を実施したりすることで、授業時間外学修における情報機器の利用を促す。

#### 【内容】

パソコンを用いたデータ収集の仕方・レポートの書き方・発表の仕方などについて知識を得て、演習を通して Word、Excel、PowerPoint 等アプリケーションソフトの基本的利用方法を学ぶ。

### キャリアデザイン1

#### 【ねらい】

大学生生活の充実がキャリアデザインの第一歩であると考え、個々の学生が目的意識を持って主体的に大学生生活を過ごし、社会人基礎力を備えた職業人になるための準備に不可欠の基礎作りを行う。

#### 【特色】

講義とグループワークを組み合わせた授業を行う。グループワークによって、メンバー同士の相互作用や協力のなかで柔軟性や自己表現力を磨きながら、社会で必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る。

#### 【内容】

将来の自分は、現在とこれからの自分の積み重ねであることを意識しながら、大学生生活を充実した有意義なものにできるように準備する。上級生や社会人を招いてのゲストセッションを通して、自身のこれからの大学生生活をより具体的にイメージして目標を設定し「大学生生活充実計画」を策定する。

## 言語学

### 【ねらい】

人間に固有とされる「言語」について、その仕組み、機能、習得、変化、社会との関係など、さまざまな特質についての理解を深めることを目的とする。

### 【特色】

日常的に当たり前存在である言語について、毎回意識的に考え、発表してもらう機会を設けながら進める。LMS (Moodle) を活用し授業内外での議論も促進しつつ、他の動物とヒトを峻別するとも言える言語だからこそその科学研究の難しさ、面白さについて、様々な角度から検討する。

### 【内容】

普段何気なく使用している言語には構造・規則性があり、だからこそ言語の習得が可能になるということなどについて、主に日本語をターゲットとして、文字、音声、単語、文、談話などについての考察を進める一方、地球上に存在する他の言語などについても取り上げていく。

## 近現代世界史

### 【ねらい】

冷戦が終わり 21 世紀を迎えた今日も国際社会は紛争が絶えない。そうした現状を理解するうえで前提となる不可欠な知識として、とりわけ第 1 次世界大戦～冷戦終結に至る一連の近現代史の過程についての理解を深めることを目的とする。

### 【特色】

各国の歴史が国際的な関係の中で相互に影響を受けながら展開されてきたということを受講者が十分に認識し理解できるよう、グローバル・ヒストリーの視点を重視した講義を行う。また、映像資料を積極的に活用し、それへのコメントを書かせて提出させるなど、一方的な講義にならないようにしている。

### 【内容】

近代主権国家による国際関係の成立以降の歴史において起こった重要なトピック、とりわけ資本主義発展と世界貿易、帝国主義、第 1 次世界大戦、世界恐慌、第 2 次世界大戦、冷戦下の危機と戦争、冷戦終結といった事項を、その時々の重要な出来事の展開とともに関連づけて詳細かつわかりやすく講義する。

## 地球環境問題

### 【ねらい】

歴史的視点およびグローバルからローカルまでの空間的視点によって、人類と地球環境・自然環境との関わりを理解し、将来にわたっての人類と環境との関わりを考えるための視点を持つことを目的とする。

### 【特色】

毎回、授業中に数問の設問を示し、その答えをリアクションペーパーに記入させ、授業終了時に提出させる。設問の内容は、その日の授業内で学んだことであり、翌週の授業の冒頭で確認を行う。

### 【内容】

人類の歴史の中で人類と環境との関わりの変遷を学んだ上で、現在人類が抱えている地球温暖化や公害、野生生物の絶滅など環境問題の現状とメカニズム、さらには日常の暮らしやライフスタイルとの関係を学び、将来の人類と環境の関わりのあるあり方を考える。

## 留学前ゼミナール

### 【ねらい】

留学に対するモチベーションを上げるとともに緊張感を持つことの重要性を理解し、留学の目的を明確にした上で、そのためにはどのような準備が必要かを各自理解することを目標とする。

### 【特色】

アカデミックな内容の他に留学に必要な事務的書類の作成を多く伴う。期限を守った上で不備のない書類を提出できることが求められる。

### 【内容】

1年次後期からの留学に向けて、学習面・生活面・精神面での準備を行なう。学習面では留学先の授業形態に慣れること、特にプレゼンテーションやライティングのスキルの向上を目指す。生活面では留学先の生活習慣や生活形態を学び、精神面ではカルチャーショック・ホームシック・対人関係の諸問題を想定し、それらにどう対処するかを学ぶ。

## 卒業論文

### 【ねらい】

卒業論文の執筆を通じて、受講者が専門的知識をよりいっそう深め、多様な意見を理解し、吸収し、かつ自己の思考を熟成させ、それを論理的で説得力のある仕方で表明する方法を身につけることを目的とする。

### 【特色】

指導教員の個別・随時の指導の下で、受講者が自信をもって社会に出ていけるように、課題発見力、情報収集力、情報分析力といった汎用的スキルを磨き、優れた国際感覚を身につけたグローバル人材としての素養を深めることができる科目である。

### 【内容】

受講者には、自己の問題関心に従って独自の視点で問題を発見し、解決へ向けた課題として設定し、それに基づいて先行研究を調査し、参考文献・資料を収集・整理し、自己の仮説を論理的・説得的に記述することが求められる。3年次・4年次の「専門ゼミナール」で培った論文執筆スキルを発揮し、卒業論文を完成させていく。

## グローバルスタディーズ入門

### 【ねらい】

本授業は、学生が、国際学科全体のカリキュラムを知り、今後の授業選択を考え、卒業論文に至るまでの各自の学びの道筋を描けるようになることを目的とする。

### 【特色】

各回の授業では、実務経験のある教員を含む全専任教員の専門に基づいた講義が行われ、毎回様々なタイプの課題が課され、ムードル等を用いた双方向的な指導が行われる。

### 【内容】

当学科で学んでいく上での基礎として、自文化理解、多文化理解、欧米や東アジアの国際関係・歴史・社会・言語・文化等について幅広く学ぶ。

## 異文化コミュニケーション

### 【ねらい】

異なる文化やコミュニケーションスタイルの背景にある思考パターンを理解し、多様性を尊重した固定概念にとらわれない視点を養成することを目的とする。

### 【特色】

異文化間コミュニケーションについて理解を深めるため、それぞれの文化の価値観や言語・非言語コミュニケーション、さらにはセルフリフレクションについてディスカッションを通して考える。学生主体の授業を進めることで様々な思考の違いを認識し、互いの理解と敬意を深める。

### 【内容】

異文化摩擦に関する様々なトピックやケーススタディについて考えながら、自国の文化についての知識や理解を深めていく。文化を構成する要素を分析し、ステレオタイプというフィルターを外して個々人と向き合う能力を身につけてゆく。

## 安全保障入門

### 【ねらい】

国際政治の歴史と現在、パワーバランス、安全保障のジレンマ、ヘゲモニーといった基礎的な概念や分析枠組み・理論について理解し、広く国際政治における安全保障の意味合いについての理解を深めていく。

### 【特色】

歴史的な観点に立ち国際政治の展開を理解し、安全保障の概念を多角的に考察していく。国際政治における安全保障の今日的な意味合い、国際政治の普遍性と特殊性に鑑みる安全保障の位置づけについて、クリティカルに考察する。

### 【内容】

主権国家の台頭や国際政治の展開、国際関係学の主要な論点を体系的に理解し、安全保障にかかわる基礎的な概念や主な論点について考察していく。国家中心の安全保障議論に加え、平和研究や共通の安全保障、覇権の安定・変化をめぐる議論について考究していく。

## 国際協力・開発論

### 【ねらい】

開発途上国が直面する経済社会開発上の諸課題、それらの解決のための国際協力について、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に取り上げられた課題を中心としてこれまでの経緯、現状及び今後の方向性について学ぶ。

### 【特色】

授業では国連開発計画（UNDP）など国連の専門機関が作成した報告書、関係資料などを可能な限り活用し、開発途上国の主要課題の最新の状況とともに、開発途上国で実践されている国際協力プロジェクトの成功事例（グッドプラクティス）を学ぶ。

### 【内容】

貧困、教育、保健医療など開発途上国の従来からの開発課題だけでなく、気候変動対策、感染症対策、人口問題、難民問題など国際社会が一丸となって取り組むべき地球規模の課題を出来る限り取り上げる。

## 東アジア地域研究

### 【ねらい】

日本・中国・韓国を中心として「東アジア」の歴史（縦軸）を概観しながら、さまざまな地域の特質をとらえつつ（横軸）、総合的に理解することをめざす。

### 【特色】

各地域の世界遺産（文化・自然・複合）やその他の遺跡につき、その歴史的背景、各国における意義、現状等について多角的な知識を得ると共に、それらの事象について各自が意見を持ち、将来のあり方などについて考える能力を身につけてゆく。

### 【内容】

文献資料や視覚的資料によって専門知識を得た後、各自が更に個別の事象を調査・研究・検討し、当該地域について考察を深められるようにする。

## アメリカ社会文化論

### 【ねらい】

アメリカ合衆国の社会文化に関するさまざまなトピックを取り上げ、幅広く理解することを目的とする。

### 【特色】

各自の留学経験（とくに英語圏）をいかした地域研究科目である。カナダやオーストラリアなどの英語圏の国々と比較して、共通点や相違点に留意しながら、アメリカ社会文化について学ぶ。また、グループ発表などを通して、授業への積極的な参加が求められる。

### 【内容】

アメリカの地理、歴史、政治、経済の基本知識を得たあと、アメリカとアジアの関係、アメリカのメディアや家族・性について学ぶ。後半はグループに分かれて発表を行う。グループごとにテーマを考え、調べ、プレゼン資料を作成する。

## 韓国社会文化論

### 【ねらい】

韓国の社会と文化を理解するために、基礎的かつ最新の情報や社会的な関心事などの知識を修得し、問題意識を持って考えられる力を養うことを目指す。

### 【特色】

留学生活を通して得た知識や経験と本授業の内容とを比較・考察することで、韓国社会が持つ問題や文化の特徴等を発見し、理解を深める。

### 【内容】

特に現代の韓国を中心に扱い、生活文化・社会・大衆文化などを取り上げる。身近な事柄から徐々に社会問題へとテーマを広げ、そのテーマに関して日本との関係も視野に入れながら韓国社会を読み取り、考察する。

## 日本語教育論 1

### 【ねらい】

日本語教育の国内外での現状について知悉し、日本語を母国語としない人たちへの効果的な日本語教育の方法について考えることを目的とする。

### 【特色】

「日本語」(外国語)と「国語」(母国語)という概念の違いを理解して、「日本語教師」と「国語教師」の相違を理解し、日本語教師資格取得の第一歩とする。

### 【内容】

日本語教育の現状について、文部科学省や国際交流基金発行の資料を通して学習する。また概念としての「日本語」と「国語」の違いを踏まえての非母語話者への日本語の教え方など日本語教師の仕事の基礎について学ぶ。

## データサイエンス基礎

### 【ねらい】

データサイエンスを支える技術(理論や手法)について知るとともに、データの処理・活用方法を学ぶことで、様々な課題に対するデータ分析に基づく問題解決能力を身に付けることを目的とする。

### 【特色】

基本的な統計処理やデータのグラフ化、回帰分析や判別分析の視覚的表現、統計学に基づく推定や検定などを行うために、プログラミング言語 Python を使用する。

### 【内容】

データの種類やデータの表現方法、基本統計量を理解したうえで、相関分析やクロス集計、回帰分析や判別分析などデータの処理と活用する方法について学ぶ。また、推測統計学における推定と検定の基礎を理解し、アンケートデータを対象に区間推定や平均・分散の検定など、実用的なデータ分析を試みる。

## 韓国語通訳

### 【ねらい】

日本語と韓国語の構文や表現の違いを理解し、日韓の異なる文化を語る場面で流暢な通訳ができることを目指す。

### 【特色】

様々な通訳の訓練法を用い効率的に通訳能力のスキルアップを図る。また、韓国語韻律の理論的な知識を得ることで、自然な抑揚で通訳できる能力を身に付ける。

### 【内容】

韓国語のセリフをリテンションの方法で和訳し、そのスクリプトを基にサイト・トランスレーションの方法で韓国語への通訳を行う。その過程で表れる日韓の構文や表現の違いに対する理解を深め、通訳課題を e-Learning サイトにより提出する。課題の誤用に関するフィードバックは次の授業で行い、より精度の高い通訳スキルの習得を目指す。